洛南タイム　2013.08.21.

心に壁 つくってませんか?!

「珈琲とエンピッ」上映会 監督・主人公を迎え宇治でトーク

身振り手振りや筆談を交えた言葉を超えたコミュニケーションを通して10代からの夢だったサーフショップを営むろう者の太田辰郎さん（51）の生き方を紹介した今村彩子監督のドキュメンタリー映画「珈琲とエンピッ」の上映会が18日にJR宇治駅前「ゆめりあうじ」で開かれた。上映の後は監督の今村さんと主人公の太田さんを迎えたトークがあった。

映画「珈琲とエンピッ」の制作を振り返る太田辰郎さん、今村彩子さん（ゆめりあ　うじ）

300円の協力金で名作の上映会を定期的に開いている「シアター300の会」（安木孝子代表）、障害者の就業支援や居場所づくりに取り組む「ゆめハウス」（江嵜美子代表）、女性の社会参画支援に向けた活動を進める「NPO法人働きたいおんなたちのネットワーク」（吉田秀子代表）が企画。

性別、障がいの有無、年齢に関わらず、一人ひとりが生き生きと当たり前に暮らせる地域づくりをめざす「3＋ゆめ＋net（さんゆめネット）」の初の事業として開催し、集いには60人が参加した。

「珈琲とエンピッ」は、自身もろう者として共に生きる社会を創り出すことをテーマにドキュメンタリー映画を手掛ける今村彩子さんが、静岡県湖西市でサーフショップとハワイアン雑貨店を経営する太田さんと出会い、その生き方をドキュメンタリーにした。

太田さんは静岡県浜松市出身。京都府聾学校高等部デザイン科、嵯峨美術短大立体造形グループ卒業後、サラリーマン生活を20年続け自主退職。07年に10代からの夢だったサーフショップ＆ハワイアン雑貨店をオープンさせた。

太田さんは手話やろう者と縁のなさそうなサーファーたちとも気軽につき合い、自らも愛飲するハワイのコーヒーで初対面の人をもてなし、筆談や身振り、手振りでコミュニケーションを交わす。

監督の今村さんは太田さんの生き方を映像に収め、「言葉を超えたコミュニケーション」を多くの人に知ってもらおうと、自らナレーターも務め、太田さんの生き方に迫った。

上映会の後のトークでは太田さんが10代からの夢だったサーフショップの店を持つまでのエピソードや筆談を通したコミュニケーションを始めるキッカケとなったハワイでの経験などを紹介。

映画が完成する半年前に東日本大震災が起き、テレビ・ラジオでの音声による津波警報がろう者には聞こえず生死を分ける情報伝達に聞こえない人が大きなハンデを抱えていることが改めて浮き彫りになったことも説明した。

今村さんは、サーフィンの映画が津波を連想させ、映画制作を中止しようかと悩んだが、仮設住宅でコミュニケーションの問題がクローズアップする中、人と人とのコミュニケーションのあり方をテーマにした映画として発表すべきと決めたことなどを述べた。

【岡本幸一】